



自分でやってみようとする「ターニングポイント」を！

校長 原野 恵子

6月初旬、1年生が校長室探検にやってきました。「金庫の中には何が入っているのですか？」「この(成美小学)の額は何なのですか？」等、興味津々でたくさんの質問を投げかけてくれました。

しばらくするとある子供が、「先生の好きな食べ物は、何ですか？」と、質問しました。私個人への質問に方向転換のようです。「実は、校長先生には嫌いな食べ物がありません。何でもおいしく食べることができます」と答えると、子供たちは驚いた表情を浮かべました。その途端、保育園時代は偏食のクイーンだった私が、何でも食べられるようになった、半世紀以上前の自分が小学1年生だった頃の出来事が、鮮やかに脳裏に蘇りました。そして、子供たちに以下の内容を話し始めることになりました。

昭和40年代、「学校給食は残さず食べるもの」という考えが主流でした。保育園では、給食を殆ど残していた私は、好き嫌いが多く、食べるスピードも遅く、食べ切るなんて自分にできる所業ではないと思い込み、いつも泣きながらぐずっていました。しかし、年配の担任の先生はお構いなしです。保育園と違って小学校では許してもらえないのだと諦めた私は、掃除の時間の終わりまでかかり、完食に向けて勤しむ毎日を送りました。

そんなある日、ふと、「時間内に食べ切りたい。どうしたらよいのだろう」という願いと問いをもちました。そして、「早く食べられるH君をしっかりと観察して、真似をして食べてみよう」という目当てをもちました。一口に含む量、口に入れる順番等、全てをH君のとおりを試みたのです。すると、驚いたことに、時間内に食べ切ることができたのです。デザートの中の半分は夏ミカンの皮を剥き、きれいに食べ終わっても、まだ余裕がありました。達成感と共に、「あれ、上手な友達の真似をすると、他にもできるようになることがあるのかも・・・」という新たな問いをもち始めたのです。国語科の音読、作文、体育科の側転、壁倒立等、友達を真似てみると、どんどんできることが増えていきました。失敗も多かったのですが、泣くことが減っていった自分を懐かしく思い出します。

この“給食事件”は、苦手や苦しさを自信や楽しさに変えるためには、自分でやってみようとするのが大切なのだと自覚する「ターニングポイント」になったようです。まさに、自分の人生を大きく左右する出来事であったのだと、改めて気付かせてもらうよい機会になりました。1年生の皆さん、ありがとうございました。

毎日校内を見回っていると、282人、一人一人に、日々学びがあることが見て取れます。一人一人にとって、自分でやってみようとするタイミングは異なります。だからこそ、できるだけ多くの人やもの、ことと、直接関わる機会を増やして、自己有用感や自己肯定感を高め、人生を変えるような「ターニングポイント」を自分自身で創り出していけるように、と願いながら、職員一同、毎日の教育活動を展開しています。



【1年生の校長室探検の様子】

6月のPTA企画委員会で審議いただき、以下の3点について決まりましたので、お知らせ致します。保護者の皆様には、ご理解とご協力をお願い致します。

夏休み中のプール開放の中止について

夏休み中のプール開放について、熱中症対策のため、午前中の実施を審議いただきました。その結果、中止することに決まりました。理由は、「①登下校時の交通安全、防犯、熱中症等の対策を十分行うことが難しい」「②午前中は、学習の時間に充てたい」等のご意見が大半であったためです。

学年集金の業者への振込手数料負担についてのお願い

今年度より、会計業務を2期制にしております。そのため、会計報告は、9月と3月の2回行います。また、業者への支払いに関しましては、前期までは現金で行いますが、後期からは、金融機関への振り込みで行います。つきましては、振込手数料を学年費から支出することになり、年間、1人につき200円程度のご負担をお願いすることになります。

校外学習のバス代の返金についてのお願い

今年度より、校外学習のバス代の返金を行わないことに致します。返金できない理由ですが、バス代が高騰したため、急な欠席による返金を行いますと、1人分の経費が大幅に高くなり、集金額に大きく影響することが予想されるからです。ただし、ご家庭の事情等で、計画をお知らせした段階で参加されないことが分かっている場合は、返金に応じさせていただきます。その場合は、事前に担任にお伝えください。

